

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2892800042		
法人名	株式会社あつぷる		
事業所名	あつぷるグループホーム播磨		
所在地	加古郡播磨町野添401-3		
自己評価作成日	平成28年10月11日	評価結果市町村受理日	平成28年11月28日
※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)			
基本情報リンク先			

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利法人 コミュニティー・サポートセンター神戸		
所在地	兵庫県神戸市東灘区住吉東町5-2-2ビュータワー住吉館104		
訪問調査日	平成28年11月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設では、地域の飲食店、スーパー、公園などに外出する機会を持っております。東西のユニットへ自由に行き来できることで利用者様や職員の交流も出ています。地域の方々を招き、「いきいき100歳体操」で一緒に身体を動かしたり、「つどいカフェ」で地域の馴染みの方とお茶を飲みながら話しが出来る時間を持つことも出ています。また、危険回避として外部からの侵入を防いだり、緊急時に即対応出来るように見守りシステムの構築もしております。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

冠婚葬祭等の事業会社で構成する117グループの傘下で介護事業を営む株式会社あつぷるの事業所の一つである。「利用者に温もりのある介護サービスを提供する」等の法人理念の下に、当事業所独自の理念から、「個」の尊重を今年度の実践課題に据え、これを職員が共有化し推進している。職員へのアンケート調査により作成した、全利用者対象の「利用者様の気づき」シートを活用して、個別対応を実りあるものとしている。地域で推進する「いきいき100歳体操」、「つどいカフェ」を事業所で行い、地域の高齢者及び介護者の集いの場となっており、利用者との交流機会が確保されるなど、懐の深い介護サービスが提供されている。企業グループでは、社会貢献にも積極的であり、車椅子の寄付、献血、善意の募金活動や美しい街づくり活動などにも貢献している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および第三者評価結果

あつふるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型の事業所として独自の理念を作成しています。職員全員が、常に携帯し、共有できるようにしている。	法人事業理念に事業所独自の理念を加えて当事業所の理念としている。事業所玄関に掲示し、パンフレットで公表している。職員は裏面に理念を印刷した名札を付け、朝礼で唱和して共有化している。理念から「個」の尊重を今年度の実践課題とした。	事業所理念は、サービスを提供するうえで、常に立ち戻る原点を言葉にしたものです。これをホームページで公表されてはいかがでしょうか。また、これを具体的な行動基準に展開するのはいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の方々には毎週水曜日に来訪いただき、利用者様たちと一緒に100歳体操を行っている。ゲームなど楽しく過ごせる時間を持つことが出来ている。	播磨町が進める「いきいき100歳体操」を事業所で毎週水曜日に開き、地域の高齢者と利用者、職員と一緒に体を動かし、その後ゲーム等で楽しく過ごす時間を共有している。「つどいカフェ」も事業所で定期に開催し地域の介護者家族の集いの場になっている。	「いきいき100歳体操」は事業所が地域の一員として存在感を示す素晴らしい取り組みです。この輪をさらに広げ、地域の保育園、小学校の子どもたちにも来てもらい、出ていく交流にチャレンジされてはいかがでしょうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	播磨町推進の「つどいカフェ」を定期的開催し、認知症や介護について地域の方と一緒に気軽に話が出来る機会を持っています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に、運営推進会議を開催し、地域包括支援センター職員や民生委員、老人会長、医療関係有識者、利用者、利用者家族にも参加していただき、率直な意見を頂きサービス向上に活かしている。	利用者と家族代表者は開催期に順次出席を依頼する。地域の老人会長、民生委員、地域包括支援センター員、協力医療機関の相談員がメンバーで、運営状況、利用者の近況等を写真付きの資料で報告し、貴重な意見や情報を得て運営に生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険課の受付窓口に、パンフレットを設置していただいたり、空室情報など知らせたり、地域包括支援センターとも同じように連携出来ている。	「いきいき100歳体操」、「つどいカフェ」を事業所で行う一方、町の窓口に事業所パンフレットを置いている。また、播磨町ケアネットへの空・待機情報連絡を行う等、地域包括支援センターも併せて密接な交流がある。近隣二市二町による連絡会にも必ず出席する。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	日中 玄関、東西ユニットや事務所は施錠せず、自由に行き来できるようにしている。身体拘束の研修も行っている。	法人が年2回、全事業所を対象に研修を行う。事業所においても年間教育計画に基づき研修を行っている。厚生労働省が挙げる「禁止の対象となる具体的な行為」を理解し、安全と自由な暮らしの両立を工夫している。日中は、玄関及びユニットの扉は開錠している。	

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関：CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	年間職員定例研修に落とし込み、高齢者虐待について学ぶ機会を設け虐待の種類や発見時の措置方法を周知徹底し虐待防止に取り組んでいる。	事業所の年間教育計画に基づき研修を行っている。高齢者虐待の定義、発見時の対応について学んだ。職員には、法人が半年に1回ストレスに関するアンケート調査を行い全体把握を行い、個別面談も行う。本社に「仕事相談窓口」を置いている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	年間職員定例研修に落とし込み、学ぶ機会を設けています。必要時には活用できるように支援していく方向です。	事業所の年間教育計画に基づき研修を行っている。管理者が指導資料を基に伝達研修を行った。利用者家族向けに、事業所の玄関に成年後見制度利用推進に関するパンフレットを置いている。制度を利用する利用者家族はまだいない。(
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は、重要事項説明書、契約書をわかりやすく説明し、料金や報酬加算、解約についてもわかりやすく説明し、納得をされた上で署名、捺印を頂いている。	管理者が利用者家族宅で、利用者と家族に重要事項説明書及び契約書で丁寧に説明し、納得が得られてから契約手続きをとる。また、重度化した場合の対応について「終末期に向けての要望書」で確認し、事業所で対応できることと出来ないことを明確に伝える。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	サービス向上委員会の取り組みとして利用者様アンケートを実施、出された家族の意見や要望について職員で話し合い検討し、サービス向上に努めている。	本社サービス向上委員会が利用者家族に毎年行うアンケート調査の結果を参考に、今年度の実践課題を「個」の尊重とした。利用者の毎月の必要費の精算を、家族に事業所で行ってもらい、その際に、意見、要望等を聞き取り、職員間で共有化している。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員定例ミーティングで意見や提案を聞く機会を設け、現場の声を反映させている。	毎日の朝礼と申し送り、月1回の全体及びユニットミーティングにより現場の声を拾い上げ改善に繋げている。年1回職員に全利用者の「利用者様の気づき」アンケート調査を行い、結果を一覧表にして、共有化し各利用者へのサービス改善に繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員のライフスタイルに応じ、常勤・非常勤が働いています。得意分野を見極め、各仕事の担当を決めています。ユニットの勤務変更も行っていきます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	能力を見極め、1名が認知症介護実践者研修を受講しました。		

自己評価および第三者評価結果

あつふるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	東播磨の二市二町グループホーム協会の定期的な勉強会や講演会に積極的に参加しています。職員も参加し、交流の機会を得ています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居相談時より利用者本人の話を傾聴し要望や不安など理解するように努めている。入居後は個別で担当職員を決め、本人の安心に繋げている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時より困りごと、不安なこと、要望などを聴取し、ご家族の思いに添えるような関係が築けるように心掛けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	透析の必要性を見極め、病院と連携し通院していただいている。相談内容によってはデイサービス・有料老人ホーム等他施設の利用をすすめさせて頂いている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	支援する側、される側という意識をせず、「出来る事はしていただく」スタイルで一緒に家事を行い助け合える関係を築いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	必ず月一回は面会して頂けるようにしており、本人、家族、職員が一緒に話できる機会にしています。また、通院時ご家族と一緒に職員が同行させていただくこともあります。		
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近隣家族や友人に気軽にいつでも来ていただけるようお願いしている。来訪時にはお茶を提供し、居室でゆっくり出来る雰囲気作りにも努めている。家族との外出や外泊もされている。	家族や友人、「いきいき100歳体操」で顔馴染みの近所の高齢者に気軽に事業所を訪ねてくれるようお願いしている。スーパーで出会う友人、知人と立ち話をする機会を作り、馴染みの喫茶店を訪ねることもある。季節には年賀状、暑中見舞いのやり取りを支援する。	

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関：CS神戸

自己 者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事準備や洗濯、共有スペースの掃除など利用者同士のかかわりが持てるようにしている。別ユニットに行き、会話を楽しんだりされる方もおられます。		
22	○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の了解を得て、現在の入院先、または入所先に訪問させていただいている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	(12) ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの生活リズムの把握が出来るように、日常のかかわりで表情や行動を見ながら、思いを理解出来るように努力している。	「利用者様の気づき」シートを有効に活用している。日常は言葉、表情から思いを推し測る。家族から得た情報は業務日誌に記載し共有化する。風呂嫌いの利用者には家族に見守ってもらった。あつぷるデイサービスの陶芸教室に利用者2人が参加した。	
24	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までと変わらない暮らしが出来るように、基本情報に記入をお願いしている。長期間の別居などにより生活歴や習慣が家族から聞き取り出来ない場合は、生活しながら本人への聞き取りで情報収集することもある		
25	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	わかること、出来ることなど現状把握に努めています。まず、好きなこと、出来ることに注目するようにしている。		
26	(13) ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介助方法など、家族様の疑問にお答えし、現場を家族様にも体験していただき一番良い介助方法を職員も一緒に考え、計画を作成している。	毎月のユニットミーティングで利用者の担当職員と計画作成担当者が現状の振り返りを行う。短期目標設定期間の3か月を目途にモニタリングを行い介護計画変更の要否を検討する。変更する場合には家族に説明して意見を求め現状に即した計画とする。	
27	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	食事量、排泄及び日々の暮らしの様子など記録している。申し送りノートを活用して、情報の共有をしている。		

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関：CS神戸

自己 者 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が遠方の方もおられ、通院など必要な支援は柔軟に対応している。薬の変更、量なども在宅療養管理指導で薬剤師に相談したこともある。		
29	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパーに買い物に出かけたり、宅配牛乳や出前の利用、また外食や喫茶店にコーヒーを飲みに出かけたりしている。		
30	(14) ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族様の意向を伺い、かかりつけ医の受診をしていただいている。家族様の希望があれば、提携している協力医への受診を行っている。常に協力医の地域連携室に相談している。	入居前からのかかりつけ医で受診できるよう支援しているが、受診の際に職員の付き添いが可能な、協力医療機関の医師をかかりつけ医とする利用者が殆どである。協力医療機関は、緊急事態が発生した場合にも柔軟に対応してくれる。	
31	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者に変化があった場合には、かかりつけ医や協力医の連携室に電話相談し早急な受診が出来るようにしている。		
32	(15) ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、医療機関へ情報提供している。入院中は、家族や地域連携室と情報交換し、経過や退院時の対応など、早期退院に向けて相談している。特に透析の利用者は、日頃より連絡帳や電話にて情報の共有ができる関係づくりを行っている。	利用者の入院時には医療機関に情報提供を行う。入院中は、主に管理者が見舞いと状態把握に病院を訪ね、家族及び地域医療連携室員と面談し、早期退院に向けて退院の時期と意向を確認する。退院前の医師からの家族説明には同席し、医療に関するサマリーをもらう。	
33	(16) ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化してきた場合や終末期について、入居契約から早い段階で家族と話し合い、意向を確認しながら、事業所として出来る範囲のことを伝えている。	契約時に利用者の重度化や終末期に向けた事業所の方針を重要事項説明書により説明する。訪問診療医師がいないことから、出来る支援と出来ないことを明らかにし、「終末期に向けての要望書」により意向を確認する。	高齢化の深刻化を背景に、終末期の迎え方に意識変化が進んでいます。重度化や終末期に向けた本人・家族等の多様化するニーズへの対応力の涵養を期待します

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	危機管理や事故発生時について、職員定例研修会で学ぶ機会を作っています。基本的な医学知識として正しい対応の仕方を勉強している。		
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	3ヶ月に1度、避難訓練を行っている。消防署と合同でも行っており、避難誘導方法を身につけられるように努めている。社内防犯委員会の防災マニュアルも活用している。地域住民にも協力を依頼している。	3か月に1回消防訓練を行っている。1年に1回は消防署員と共に訓練を行い指導を受ける。消火・通報・避難訓練を行うが、職員全員が避難誘導できることを目標としている。津波・水害時の避難場所は近隣のホテルである。近隣住民に協力をお願いした。	災害や緊急事態発生時には、事業所だけの対応には限界があり、地域や近隣住民の方の協力が不可欠です。播磨町消防団にも協力をお願いするのはいかがでしょうか。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員定例研修でプライバシー保護について学ぶ機会を持っている。また、接遇やマナーの研修も行っている。尊敬の念を大切に声かけをするように心がけている。	年間研修計画に基づきプライバシー保護、人権尊重、接遇・マナー研修を行った。職員全員にマナー手帳を配布して啓蒙している。入浴時、排泄時の配慮、目線を合わせての声掛けや傾聴がある。言葉遣いには特に気を配っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけご本人の希望を聞きだせるように声かけている。意思表示が困難な方は、表情や日頃の生活の中から好みなどを把握している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴や散歩、レクリエーションなど声かけし、拒否があれば、日時を変更している。食事個人ペースでゆっくりといただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その日に着る洋服はご本人に任せている。理美容も希望を伺い、訪問を利用される方、近隣の美容院へ行く方などおられる。利用者様より化粧品の購入希望があれば、そのつど購入している。		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事している。食事中は昔懐かしい歌謡曲をBGMとして流し、楽しい雰囲気づくりをしている。買い物や調理、片付けなども一緒にしている。	栄養士の作成メニューによるが、利用者には好き嫌いが多く、別メニューで対応している。料理の盛り付けやテーブル拭き、片付けは職員と共にやる。職員もテーブルで同じものを食べる。時には、皆で調理をしたり出前を取る。外食ツアーも楽しむ。	

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関：CS神戸

自己	者三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は基本栄養士がバランスを考え立てているが、利用者の希望や好みを聞き、変更している。また、外食をしたり手作りのおやつを楽しんだりもしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声かけ、誘導をしている。3ヶ月に1回程度、歯科に行き口腔チェックも行っている。		
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	出来る限りトイレでの排泄を心がけている。その方の状態に合わせ、定期的にトイレ誘導、介助している。	一覧にした排泄表をもとに出来るだけトイレで排泄できるよう、時間をはかって、さりげなく声掛けし、定期的にトイレに誘導、介助している。尿意がなく放尿が絶えない利用者には、表情、態度で判断して声掛け誘導を繰り返し、改善した例もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	朝食の牛乳やおやつにヨーグルト、ヤクルトなど摂取していただいて予防を心がけている。また、散歩など身体を動かす機会を持ち、自然な排便が出来るよう支援している。		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎朝、入浴の意向を伺う。希望により、日時の変更をしている。行事の時にはしょうぶ湯・ゆず湯等季節湯を楽しんで頂いている。	週2回は入浴できるよう支援しているが、病院受診の前日は入浴する配慮をしている。入浴時間は朝に希望を聞いて順番を決める。季節行事の日を選んで菖蒲湯やゆず湯を楽しんでもらっている。近くのあつぷるデイサービスに足湯に出掛けるのは人気が高い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝時間は決めずに個々のリズムに合わせた支援をしている。体調や気分により居室で自由に休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に整理したり、薬管理の担当者を決めている。主治医に薬の効果や相談など行ったり、薬剤師による勉強会も行っている。飲み忘れがないように、チェックも毎回行っている。		

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	創作や歌・ゲームなど、皆で一緒の時、読書や編み物・日記をつける等一人になりたい時は居室にてゆっくり取り組んで頂けるよう個々に合わせて対応しています。		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に散歩や買い物に外出している。外食や喫茶を楽しんだり、地域の祭りに参加したり、花見や紅葉を見に行く等季節を感じられるように外出している。	利用者の希望に沿って個別の外出を支援している。日常的に散歩をしたり近くのスーパーに出かける。秋祭りは隣町まで出かけた。家族と食事や喫茶店に出かける利用者もいる。皆での外出は、外食ツアーや足湯、季節の初詣、梅・桜・紅葉見学がある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	外出時には、本人が自由に使えるお金を所持していただき、自分で欲しいものを選んで購入していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話は、かかった時は取次ぎ、かける時は事務所の電話を使用していただいている。家族から手紙が届いたり、また書いて出す方もおられる。		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングには天窓があり自然な光が入る。清潔な空間が作れるよう掃除も心がけている。壁面には、行事や季節が感じられる飾り付けをしている。	広くて明るいリビングは、清潔で落ち着いた雰囲気である。壁は皆で制作した大きな日めくり、季節感ある貼り絵が飾り付けてある。全員が協力して掃除をする。洗面所、手すり、テーブル清掃は担当者が決まっている。温度や湿度の管理も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用リビングには、ソファを設置し、テレビを見たり、少人数で話をしたり出来る。一人になりたい時は居室で読書をしたり、編み物をしたりと自由に過ごしていただいている。		

自己評価および第三者評価結果

あつぷるグループホーム播磨

評価機関:CS神戸

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ新しいものを購入せず、自宅で使っていたものを持ちこんでいただくように話をしている。	持込物には特に制限を設けず、自宅で使っていた馴染みの物を持ち込むよう助言している。ダンス、テレビの他、ピアノ、運動器具や多くの書籍を持ち込む利用者もいる。天井の見守りセンサーは過度な干渉を避け危険予知に役立っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の状況に合わせた福祉用具の使用や手すりを持って移動が出来るよう安全に過ごせる配慮をしている。また、トイレには大きな表示をし利用者様が安心してトイレに行けるようにしている。		